

いきいき健康術 第101回

『風邪に
抗生物質はいりません』

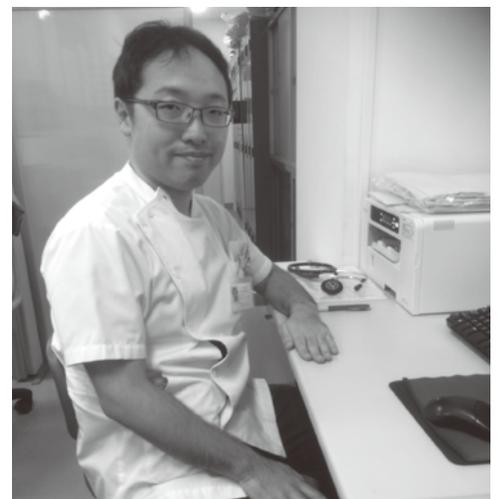
このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の内科医師横井大祐先生。冬場が増え、油断するとかかってしまう風邪と抗生物質に関するお話です。

新年を迎え、一年の中でも冷え込みがピークを迎える季節です。寒さとともに風邪の原因となるウイルスも活発となつていきます。ウイルスといえはインフルエンザが有名ですが、風邪症状を引き起こすウイルスは他にもたくさんあります(ライノウイルス、コロナウイルス、RSウイルスなど)。ウイルスを体内に入れないように、しっかり手洗いをするように。ウイルスをまかないように咳が出る人はマスクをしましょう。

さて、風邪の予防にいそしんでいても、やはり風邪にかかってしまうことがあります。成人では、平均年三回程度風邪にかかるといわれています。

風邪をひいて受診される人の中に「抗生物質を出してください」といわれる人がいます。ここで大切なのは「風邪の原因はウイルスであり、抗生物質は細菌をやっつける薬である」ということです。抗生物質はウイルスには効かないので、風邪には効かないのです。

風邪の後に肺炎になるかもしれないから抗生物質を使用するという人もいますが、それと実際に肺炎を防げるのは、四千人から一万二千人に一人くらいというデータがあります。これではあまりにお金がかかりますし、抗生物質は副作用(発疹、下痢が



内科医師
横井 大祐 先生(京丹波町病院)

有名。重い全身型アレルギーもあります)が多く、二十人に一人くらい副作用が出るといわれています。必要のないトラブルを抱えることとなります。

また、今、世界中では抗生物質の効かない病原菌が増えており、医療者を悩ませていきます。抗生物質をたくさん使うことで、それらが発生しやすくなるのです。

風邪の治療の基本は、しっかり栄養と水分をとって自分の免疫力を高めることです。薬はしんどい症状を抑える補助的な役割です。もちろん、肺炎など抗生物質がなくてはならない病態もあります。そのため私たちも正確な診断に努めます。この冬も元気に乗り切りましょう。

お知らせ

京丹波町病院では、毎週水・木曜日の午後一時から三時まで小児科の予防接種を行っています。

☎86-0220